

JSRT 企画

①乳房班

あなたの施設のポジショニング技術、どのように教育していますか？

座長集約

東北大学病院 ○千葉 陽子(Chiba Yoko)

今年度の学術研究班乳房班では、マンモグラフィに携わっている技師の多くが悩まされている「ポジショニング」をテーマに企画しました。乳癌の発見、正しい診断、マンモグラフィの画質、受診者の被ばく等、全てにおいて、技師の技術であるポジショニングが重要な役割を占めております。近年、日本乳がん検診精度管理中央機構においても、マンモグラフィのポジショニングの悪さが多く指摘されております。正しいポジショニングとはどのようなものか、指導・教育方法に悩まされている施設も少なくないと思われます。そこで、今回は大学病院、市中病院、検診施設、それぞれ違う役割を果たす3施設における、技術指導・技師育成について講演していただき、技術の向上について考える内容を企画しました。また、精中機構技術委員である君島乳腺クリニックの平井先生により、正しいポジショニングについて講演していただきました。

まずは、それぞれ違う役割を果たす3施設における、技術指導・技師育成について、山形大学医学部附属病院の大沼先生より大学病院における教育、がんセンター新潟病院の長先生より市中病院における教育、岩手県対がん協会の高橋先生より検診施設における教育に関して講演をしていただきました。それぞれの施設によって、患者や受診者の数や特徴が異なり、それぞれの新人教育の苦勞を知ることができました。撮影に入る前にポジショニング練習をすることは必要ですが、どの施設でもポジショニング練習用のトーラスト・ファントムを所有しているわけではありません。今回の講演の中でもファントムを所有していない施設がありました。その施設では、技師がTシャツ1枚になり、その上からポジショニング練習しているという話をされており、ファントムを所有していない施設での努

力や工夫を聞くことができました。また、3施設とも教育プログラムを作成しており、新人が独り立ちするためには3カ月程度要することがわかりました。ただし、どの施設においても、独り立ちをさせるための基準を作ることは難しく、苦勞をしていることが問題点であることもわかりました。この3施設の講演は、我々現場での指導や教育に対して非常に参考になるものであったと思います。

精中機構技術委員である君島乳腺クリニックの平井先生からは、正しいポジショニングとはどのようなものか、また、後輩を指導するために必要となる知識はなにかを講演していただきました。認定講習会では、同じ講師が同じポジショニングを指導しているはずなのに、全国の講習会では様々なポジショニングをみる機会が多いということを知りました。また、更新試験に提出する臨床画像がけっして良いものではなく、これらはポジショニングがすぐに自己流になっていることが原因であるということをお話されておりました。さらに、技師のポジショニングで病変を作ったり、撮影者によって別人のような全く違う画像になったり、と実際の画像による説明が非常に説得力のあるものでした。ポジショニングにおいて、なぜこのようなことが必要なのかをひとつひとつ丁寧に教えていただき、今後のマンモグラフィ業務に活かしていける内容であり、非常に参考になる講演でした。

今回は、マンモグラフィのポジショニングの大切さ、そしてその教育・指導方法についていろいろな知識を習得していただけたのではないかと思います。今回のセッションがその一助となれば幸いです。